

派遣生が語るこれからの私 タスカルーサ経験を NI-Youth で生かしたい

島田早織（東邦大学付属東邦高校）

私が今回のタスカルーサ市との青少年派遣・受入事業に参加して、見習いたいと感じたことは3つあります。

1つ目は地元愛の強さです。

タスカルーサの人々は自分が住んでいるアラバマ州を心から誇りに思い、その良さについて熟知していました。特に印象的に感じたのは、“アラバマグッズ”を、何かのイベントの時でなくても身近な日常品としてごく自然に利用していたことでした。

2つ目は、それぞれ“自分のやりたいこと”に熱中する姿でした。

自分が興味を持てることに対する果敢な行動力や、自分はどうあるべきなのかを自らの知識や経験を最大限に活用して考える思考力には圧倒されました。

3つ目は人との関わりを大切にしていることです。

より多くの人と関わるということはより多くの協力者を得られるだけでなく、より多く

の考え方を知ることができます。

これらのことは、私が自分の将来について多くの可能性を考えるきっかけとなりました。

この3つの見習いたいことを実行するため、そしてこんなに素晴らしい経験をさせてもらった習志野市とタスカルーサ市に恩返しをするために、私はこの青少年交流を終えた後、NI-youth に加わりました。

NI-youth では、将来について考えている学生や、習志野市を大切に想う大人の方々、普段の学校生活では関わるることができない人たちと出会うことができます。またイベントの企画から実施までを自発的に行うことができます。

私はNI-youth での活動を通してもっと多くの経験や考え方を吸収し、今度は派遣生ではなく企画側として再びタスカルーサ市を訪れて、より成長した姿をタスカルーサ市でお世話になった方々に恩返しとともに見せたいと思います。



高校生同士、すぐなかよしに



NI-Youth メンバーと楽しい時間